

# Amitié



Vol. 13 2019  
June

公益財団法人 動物臨床医学研究所  
東京事務所

「人と動物の会」

## HaAC

Human and Animal Club

### contents

巻頭エッセイ 「新しい時代「令和」を迎えて」 富永佳与子 .....1  
 里親さんからの便り .....2  
 活動報告①アミティエフェスタ in Aprilわんわん運動会 .....3  
 ②アミティエチャリティーコンサート2019 .....4  
 ③長谷の観音市（倉吉市内）にて広報活動・屋台出店 .....4  
 ④保護動物の受入れ・譲渡状況 .....5

活動報告⑤報告と今後の活動予定 .....6  
 八米 mom・BALTOmom からののお便り（報告） .....6  
 Amitie News アミティエ創立6周年記念 動物愛護フェスティバル  
 ・動物の写真コンテスト作品募集のご案内 .....7  
 ・屋台募集のご案内 .....7  
 サポーター入会者及び寄付、物品寄付のご紹介 .....8  
 サポーター会員募集・ボランティア募集／編集後記 .....9





## 第13回 巻頭エッセイ

公益社団法人 Knots 理事長

# 富永 佳与子

Kayoko Tominaga



富永 佳与子 (とみなが・かよこ)

1962年生まれ。長崎大学経済学部経営学科卒業。企業での企画・広報業務の経験を経て、2000年NPO法人Knots（2010年公益社団法人Knots）設立時より、代表（理事長）。

兵庫県ワイルドライフ・マネージメント計画・運営協議会、農林水産省獣医師審議会等の委員を歴任。現在は、奈良県いのちの教育研究協議会副会長、神戸市人と猫との共生推進協議会監事、神戸市動物愛護協会理事、日本獣医史学会評議員を務める。国立大学法人滋賀大学広報アドバイザー、武庫川女子大学非常勤講師、長崎市観光大使

## title: 「新しい時代 「令和」を迎えて」

新しい時代、「令和」最初のアミティエに登場させて頂き、本当に光栄です。Knotsは、阪神・淡路大震災の経験を「人も動物も幸せな未来」へ繋げていこうと、主として飼い主の立場から啓発・教育を中心に事業を行なっている公益社団法人です。

災害の時代「平成」は、その経験を通じて「人と動物の関係」についても大きな変化を遂げた時代でした。来年は、阪神・淡路大震災から25年となりますが、当時、日本で初めて組織立った動物救援が行われ、被災動物約9300頭と推定される中、1545頭が保護・譲渡されました。兵庫県南部地震動物救援本部（（社）兵庫県獣医師会、（社）神戸市獣医師会、（社）日本動物福祉協会阪神支部）のご活動は、未曾有の都市型災害の中、手探りで進められることも多く、困難を極め、「一緒に暮らせないなら」と安楽死を選択した飼い主さんもおられたということも記録に残っています。私は、阪神淡路大震災の1年後、譲渡動物達のその後の訪問調査（（社）日本愛玩動物協会による）に参加。殆どが程なくなつき、幸せに暮らしていました。この調査で、成犬・成猫も譲渡が可能ということが証明され、行政は成犬・成猫譲渡に取り組み、その後の各地への動物愛護センターの設置、「動物は命あるもの」とした動物愛護法への改正と繋がっていきました。阪神・淡路大震災の動物救援事業は、今日の「人と動物の共生」の大きな転換点であったと言えます。

この救援事業の中心となられた当時の（社）神戸市獣医師会会長と（社）日本動物福祉協会阪神

支部副支部長は、プライベートでも、会長は副支部長の頼れる獣医さんであられました。獣医師と飼い主さんとの深い信頼関係が、この困難な事業を可能にしたと思います。私のお世話になっている獣医師の先生も、本当に寝る間もなく診療と救援に取り組んでおられたことが、昨日のこのように思い出されます。飼い主にとって、「信頼できる獣医師」は、何にも代え難い存在なのです。

新しい飼い主さん達は、皆さま、「この子を助けたのではなく、この子に助けられました」と仰り、「この子を手放さなければならなかった飼い主さんは、どんなお気持ちだったのでしょうか」と涙ぐんでおられました。きっと今も、新しく動物達を受け入れて下さった飼い主さん達は、同じ想いを持っておられるのではないかと思います。

最後に、ずっと私の心に残る女性のお話を。その方は、重い病気になり、ワンちゃんと暮らす妹さんと同居されたそうです。「これまで動物は嫌いでも、一緒に暮らしたら、本当に幸せで。もう余り生きられないけど、この幸せを知ることができて、本当に良かった。この気持ちをわかる人に話したくて来ました」講演の後の、短い時間でしたが、改めて、人と動物の関わりが、どんなに人の生活を豊かにするのかを知らされました。「令和」は、一人々が美しく心を寄せ合う中で文化が生まれ育つ—という意味だそうです。令和の時代、お一人でも多く「人と動物と一緒に居られる幸せ」を最後まで楽しめる文化が育つように、「アミティエ」の一層の御隆盛をお願いしたいと存じます。